

こども
みらい
風物詩

山里に吹く春風は、

子どもたちにも

新たな季節の訪れを告げる。

新しいものと古いものとの融合ゆうごうのなかで

子どもの世界にも時代の先端を行く、

さまざまな経験がおりこまれる。

木洩れ日こもをうけた暖かな生命いのちの鼓動こどうは

人々を新たな躍動やくどうへといざなう。





S p r i n g

春



川辺小学校の「旗持ち入学」

つくしやタンポポの咲く小道
を晴やかな笑顔の子どもたちが
学校へと急ぐ。新学期をむ
かえて、心も身体も軽やかに
喜びを表現している。子ども
たちの顔が朗らかで純真なのは、
幼い頃から自然の中でゆっく
りと深呼吸しながら育ってき
たから。そして春は遠足や運
動会など、村のあちらこちら
で賑やかな声援がとびかうと
きでもある。二世代・三世代
が一緒に暮らし、祖父母が孫
の成長を喜び、初節句を祝う。
少し前の日本の古き良き家族
像がここに残っている。新し
い世代と古い世代が共に歩み
ながら、お互いを尊重しあい
敬うことの大切さ。新しい村
づくりへの豊かな思索は、そ
んなにげない日常から生ま
れてくる。




夏



夏の深緑と強い日差しに心
惹かれるのは、わたしたち
の祖先が森林の中で生まれ、
その恩恵をうけながら進化
してきたからだ。蓮の花が
まばゆいばかりの陽の光を
受けながら、涼やかな陰を
つくり村をやさしく包む。





限らない清流。
渾々と湧く生命の水。